

令和3年度 第2回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 令和3年6月23日（水） 15:00～17:00
II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
II. 出席者： 片岡主査、神原委員、廣井委員、原島委員、山元委員、小原委員、中山委員、
中村アドバイザー、井端事務局長、森下

III. 資料

- ① 医療系を中心とした分野連携フォーラム型PBL 授業の進め方の方針（メモ）
- ② 2021年度実験授業の検討日程について（事務局メモ）
- ③ 実験のプラットフォームについて（提案メモ）
- ④ 202年度第回委員会議事概要
- ⑤ 参考資料 1～5

IV. 議事概要

1. 2021年度の実験授業について

第1回委員会で健闘したテーマ「コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える」について①「医療系を中心とした分野連携フォーラム型 PBL 授業の進め方の方針（メモ）」により実験授業の進め方の検討を行った。

(1) チーム編成

- ① 医学・歯学・薬学・看護学（リハビリテーション学含む）・栄養学・社会福祉学の学生、法学・情報コミュニケーション系等の学生による7名または8名程度のチームを2チーム編成する。なお、法学・情報コミュニケーション系の学生は1チームに2名を予定したいが、不可能な場合には1名でも良しとする。
- ② 学生の選定は、各委員から問題意識の高い学生に参加を打診して参加者を募集する。
- ③ 9月15日までに参加者を確定し、9月24日頃までにプラットフォーム上で事前に自己紹介を済ませておく。
- ④ 参加学生は、分野の事情応じて、9月下旬から11月上旬に参加可能な3年生から5年生でモチベーションの高い学生を対象に実施することにし、各大学から1・2名の参加者を募り、2グループを目指したい。
 - ・医学：4年生で検討する
 - ・歯学：大阪歯科大、昭和大で5年生を候補に検討する
 - ・薬学：2名を検討する
 - ・栄養学：4年生で2名を検討するが11月第1週以降は厳しい
 - ・看護学：3～4年生で 2名を検討する
 - ・社会福祉学：3年生で 2名を検討する
 - ・法学：（※神奈川大学の後期のゼミのテーマにし法政策フォーラムとの連動で検討）
 - ・情報コミュニケーション学：（3年生1～2名を検討する）
- ⑤ 倫理委員会については昭和大学で一括審査の方向で進める。
 - ・各委員に倫理のビデオ視聴
 - ・募集ポスター

(2) 実験授業のコマ数と学修目標について

- ・ 細かな「ガイダンス」、「決めつけ」を行わないで、学生が主体的にネット上でホワイトボードを使ってディスカッションし、Word やPPT などまとめて報告できれば良い。枠をはめないで学生に考えさせることが重要。

- ・ 5回・5コマを設定したが、内容を検討して4回・4コマで実施することも可能。
- ・ 基本的に夕方各コマの間隔を1週間程度開けて実施する
- ・ 5回の場合の以下のような学修目標で進める。

<第1回> テーマの認識、問題整理考える

国内外での主なコロナ禍の社会現象と対策を調べ、どのような関係性が見られるか個別に整理した結果を共有した上で、チームとして意見交流し、問題の範囲を大まかに整理する。(考察の結果は、PBLプラットフォームで共有する)

<第2回> 問題発見

感染症対策として有効であったと思われる点、有効性が不明確な点、対策がとられていない点などを個別に書き出し共有した上で、コロナ禍と共存していく上での本質的な問題は何か議論する。その上で、感染症対策等の有識者からの意見を踏まえて、問題発見を行う。(問題発見は、PBLプラットフォームで共有する)

<第3回> 課題の抽出・設定

コロナ禍で命を守る医療、生活を守る医療や、健康を増進・強化する生活を実現していくために、それぞれの分野で対応していくべき課題の抽出を個別に書き出し共有した上で、チーム内で課題の洗い出しを行い、複数の課題を設定する。

<第4回> 解決策の考察、構想とりまとめ

持続可能な生活を守る医療の在り方、健康生活を主体的に捉え維持・進展するための方策を個別に提案させ、実現性の観点からチーム内で議論し、優先順位をつけて構想をとりまとめる。また、構想が進んだ段階で、有識者、学生との意見交流を行い、助言を受ける。

<第5回> 構想レビュー、講評、振り返り。

2チームが合流して解決策の構想を発表し、チーム全員でレビューを行うとともに、構想の内容について有識者から意見を求める。その結果を踏まえて学生一人ひとりから学修成果のポートフォリオを提出させる。

<主な意見>

- ・ 各学生のコロナ禍での実体験から考えさせることが重要であり、自分の置かれている立場で、世界規模の感染状況、医療の状況、ワクチンの状況、オリンピックの感染対策などの現状や課題について考えさせる。その意味で1回目と2回目が重要になる。
- ・ マスコミで議論しているようなワクチン・ウイルスなど目の前の浅いレベルの議論にならないように、深いレベル大きな視野で、分野間でディスカッションさせ、20年後、30年後を構想できるような機会を与えたい。
- ・ 評価については、各学生が熱心に取り組み、良いプロダクトができれば良い。解決策について考えることが大事であり、このことが将来の役に立つと思う。多分野の学生とのディスカッションを積極的に行い、受け身でなく主体的に取り組むことも一つの評価になる。
- ・ 今回のコロナ禍の体験は正に学生に自身の問題として考えさせることができる。また、新聞、ネット、厚労省などに多くの情報があり活用できるので、特別なりソース授業は不要と思う。コロナ禍で大きく変わった価値観、人権、生活などへの影響、医療のあり方「生命を守る医療、健康を守る医療、生活を守る医療」、「なんで日本はワクチン後進国になったのか」、「医療先進国の日本でなぜコロナ病床が無いのか」など、テーマは多いと思う。
- ・ 5回程度の実験授業のスケジュールを決めて、後は学生に自主的に考えさせ、報告書を出させるなどでも良いと思うが、20年・30年先を考える視点、分野にとらわれない柔軟な発想、過度な負担にならないこと、議論が行き詰ったときのアドバイスなどの工夫が必要と思う。

(3) ファシリテータについて

- ・ 多数のファシリテータでは学生が混乱するので2チームに各チーム1名のファシリテータがついて授業を支援する。
- ・ ファシリテータ以外の委員はその後につき、ファシリテータの支援とファシリテータを経由しての助言を行う。

(4) 実験授業のプラットフォームについて

資料③の「実験のプラットフォームについて（提案メモ）」を基に二瓶先生に前回同様にご協力をお願いします。

- ・ 参加学生に新しいGoogleの個人アカウントを取ってもらいGoogleのアプリケーションで検討する。
- ・ 実験授業用のアカウントは日常使用しているアカウントと別になり使い分けが必要となるが、事前練習やマニュアルを、実験授業の前の顔合わせなどでの練習で可能と思う。
- ・ Googleドキュメントで実験授業の掲示板を作ったり、Googleクラスルームを使うことも検討し、汎用的なプラットフォームで実施することを検討する。

(5) 参加学生について

本日の内容を踏まえて各委員に次回委員会までに検討をお願いします。

(6) 次回の委員会について

本日の内容を踏まえて各委員に次回委員会までに検討をお願いします。

2. 次回の委員会について

(1) 日程

8月3日、4日、5日を候補に委員のご都合に合わせて日程を決める。

※ 日程調整の結果、8月8日15時30分に決定

(2) 検討内容

①事前準備と授業内容(5コマ)の詳細、②有識者及び関連資料の探索。③ファシリテート体制と役割分担、④授業の実施時期、⑤授業のプラットフォーム環境などについて検討する。

(3) 次回に向けた検討お願い事項

① 倫理委員会の申請

- ・ 昭和大学で一括審査を進めるので各委員は各大学で準備をお願いします。
- ・ 事務局で募集ポスターを作成する。

② 参加学生について

- ・ 本日の内容を踏まえて各委員に次回委員会までに候補学生の人数、学年、学部を教えてください。

(6) 次回の委員会について実験授業のプラットフォームについて

- ・ 二瓶先生に準備をお願いします。

③ 実験授業のスケジュールについて

- ・ 9月～11月の各委員のご都合(夕方)をお伺いしスケジュール資料を作成する。